したるさまにて、ひしめきあひたり、このちごさだめておどろかさむずらむとまちゐたるに、僧の物申さぶらはむ、おどろかせ給へといふを、うれしとはおもへども、たゞ一どにいらへむも待けるかともぞおもふとて、いま一こゑよばれていらへむと念じてゐたるほどにや、なおこしたてまつりそ、おさなき人はね入給にけりといふこゑのしければ、あなわびしと思て、いま一どおこせかしとおもひねにきければ、ひし〳〵とたゞくひにくふおとの去ければ、すべなくてむごの後にえいといらへたりければ、僧達わらふことかぎりなし、

これも今はむかし、ゐ中のちごのひえの山へのぼりたりけるが、櫻のめでたくさきたりけるに、風のはげしくふきけるをみて、このちごさめ〳〵となきけるをみて、僧のやはらよりて、などかうはなかせ給ふぞ、この花のちるををしうおぼえさせ給か、櫻ははかなき物にてかくほどなくうつろひ候なり、されどもさのみぞさぶらふとなぐさめければ、櫻のちらむは、あながちにいかがせむくるしからず、我てゝの作たるたの花ちりて、實のいらざらむおもふがわびしきといひて、さくりあげてよゝとなきければ、うたてしやな、

〔源平盛衰記二十〕小兒讀誦事

兼隆（和泉判官）被討後日ニ追善アリ、修行者ヲ招請シテ、唱導ヲ勤ケルニ、色々ノ捧物ニ、思々ニ志ヲ載タリ、其中ニ一紙ノ諷誦アリ、法華經開八卷心成佛身ト計書タル諷誦アリ、導師是ヲ讀煩タリケルニ、聽衆ノ中ニ五歳ノ小兒アリ、此諷誦ヲヨマント云ケルヲ、乳母イカニトシテカト制シケレ、共、膝ノ上ヨリ頽下、高座ノ下ニ歩寄テ、

法ノ花終ニヒラクル八牧ニハ心佛ノ身トゾ成ヌルト、不思議ナリケル事也、

〔新撰字鏡イ〕僮（太公徒冬二反、平、使也、謂ニ役使ノ也、未ニ冠人衆庶也、（中略）和良波、）

〔同女〕娘（五嵇反、嬖也、和良波、）

〔倭名類聚抄二老幼〕童（徒紅反、和名和良波、未ニ冠之稱也、）

禮記云、童

童